

献辞

村田嘉弘教授は、1989年の着任以来、30有余年にわたり長崎大学経済学部・経済学研究科での教育研究活動に携わり、2021年3月に定年を迎えられました。

本学着任以来、先生は学部・大学院において応用数理、応用数理特講及び演習など、教養教育において初年次セミナー・教養ゼミナール、全学モジュール科目などの多くの科目を担当されました。また、演習を通じた少人数教育に対する熱意は特筆すべきものであり、留学生を含む300名を超える学生を教育し、各界に多くの人材を輩出いたしました。また、同研究室所属のゼミ学生の研究成果に対して学部長賞が4回、学長賞が1回授与されています。

研究活動に関しては、先生は一貫して二階非線形の複素常微分方程式であるパウルベ方程式の研究に取り組んでこられました。最大の業績は有理関数解（微分方程式によっては代数関数解）を全て求める手法を新たに創案されたことであり、それはMurata's Systematic Approachとして広く数学界の共有財産となっています。また、Mason-Woodhouseの理論を再構築し、反対称Yang-Mills方程式が行列型パウルベ方程式を含みAomoto-Gelfand流の超幾何関数解・合流型超幾何関数解を持つことを明らかにした研究、パウルベ方程式がEuler-Lagrange方程式であることの証明、複素常微分方程式系の特異点に関する基礎定理を証明するなどの研究も高く評価されており、Cambridge大学Isaac Newton研究所で開催された国際研究集会での招待講演者に選ばれています。科学研究費7件（代表者4件、分担者3件）を獲得されました。

組織運営面では、教学担当副学部長をはじめ、講座主任、情報化推進委員長、入学試験委員長、経済学研究科入学試験委員などを歴任されました。入試委員長時には入試実施体制の大幅刷新、教務担当副学部長時には新カリキュラムの導入など、経済学部の根幹にかかわる大規模改革

の先頭に立っていただきました。併せて2013年10月から4年間、情報担当副学長に任命され、ICT基盤センターの開設と改組・大学IR室開設・大学教育イノベーションセンターへの教学IR部門の設置など長崎大学の情報化推進体制の確立に携わり、併せてLACSの普及と機能強化、教務システムNU-Webの現行システム導入、出席管理システムの整備発展など教学システムの整備にも尽力されています。

村田先生の数学者らしい緻密な思考が、経済学部の研究・教育・運営すべての面において貴重な戦力であったことは衆目の一致するところで。ここに、教職員を代表して改めて感謝申し上げるとともに、今後のご健勝とご活躍を祈念して、献辞とさせていただきます。

2022年3月

長崎大学経済学会長

長崎大学経済学部長・経済学研究科長

深 浦 厚 之



村田 嘉 弘 教 授